

中心をご覧になる神様(ルカ 5:12-39)

神様の恵みにより信者になった私たちは、実は真の祝福を受けている人です。どれほどなのかと言いますと、他人を生かすほど幸いな者になっているということをぜひ覚えていただきましょう。本当はこのことに気づいている信者であれば、毎日、今日もこの救いの福音を聞くべきたましいに会わせてくださいという思いで一日をスタートし、それが実際起きるかどうかは別として、そのような思いをもって一日をしめくくる、そのような信者になるはずなのです。その思いが実るときになれば、神様は必ず福音を聞くべき、救いのために定められているたましいを起こしてくださるはずなのです。それが私たちが生きる目的であり、またクリスチャンとしての最高の特権であり、価値でもあります。しかし残念ながら、自分が信者としてそのような祝福を受けている者だという確信がなかなか持てていないので、その思いもなかなか持つことができないし、その祈りではなくて、祈りも宗教の祈りのレベルにいつもとどまっているような残念な現実があることも事実なのです。それで今日はキリスト・イエスによって他の人を生かすほど、お医者さんや大学の教授、また政治家にもできないことができる最高に価値ある存在、幸いな者なのに、なぜ私にはそのような確信がないのか、その喜びがなかなか私には見られないのかということに対して聖書を通してその答えを教えられたいと思います。さまざまな理由があるでしょうが、一番大切なのは、人を見ると、幸せと不幸などを考えるときに、信者になったにもかかわらず昔のままになっているからです。そこを変えることで、つまりその刻印が変わることで私たちの内側の霊的な状態が変わり、神様に用いられる時刻表を迎えることになります。私たちが何かをやるのではなくて、私たちの内側が変えられて、その思いをもって祈っていると、神様の時刻表を必ず迎えることになるということを心に覚えてメッセージに耳を傾けましょう。

今日はルカ 5:12-39 までの内容であります。そこには昔、らい病と言われていた不治の病を患っている人が癒される場面、また中風の病気をわずらっている人が友だちに連れられてきて、イエス様によって癒されて自由になる場面、また取税人のレビを招いてレビがイエス様に従い、またレビの家で大きな宴会を開いてもてなしをする場面などが書かれている聖書です。そしてそこに必ずパリサイ人と律法学者たちが文句を言ってクレームをかけるような内容が挟まれている聖書の箇所です。これらを通して私たちはこのようなメッセージを整理していかないといけないと思います。

1. 人はうわべで人の幸せと不幸を判断する。(善悪祝呪)

まず第一に、人はうわべで人の幸せと不幸を判断しています。善悪の判断も人のうわべで、また何が祝福なのか、呪われたのかに対しての判断、分別ということも、結局人のうわべがどうなのかによって判断することになっています。

1) 宿命的判断

そのような判断のことを難しい言葉で申し上げますと、宿命的な判断と言います。イスラエルの人はそもそもイスラエル人として生まれていない、他の民族として生まれて、異邦人として生まれること自体がもう呪われていることとみなしていました。宿命的にそういう判断の仕方を持っていたわけです。

2) ツアラアト、中風、取税人

なので、今日の聖書に出ているらい病の患者というのは、治るか治らないかがポイントではありません。もうすでに神様に捨てられて呪われてダメな人間なのであいう病にかかると、そういう見方、判断をしていました。当たり前の中風の病気も不治の病だったので、その中風の病気の人がイエス様によって治る治らないということがポイントではありません。もうすでに捨てられている人間、神様に呪われている人間なので、イエス様がその中風の患者にあなたの罪は赦されたとおっしゃったときに、あの人は病気

を治す力がないので、言葉だけで言葉遊びをしているのではないかという思いを抱えていました。それを見抜いたイエス様が、それとこの人を治すこととどっちがやりやすいのかというやりとりをしていらっしゃいます。ということはこの中風の患者は治るか治らないかではなくて、もうすでに神様によってさばかれて呪われている罪人に間違いないのに、神様でもないイエス・キリストがあなたの罪は赦されたと仰ることが言語道断であるし、この人を治すということも神様に敵対するようなことになりかねないわけです。そのような文脈の中でこの聖書を読まないといけません。彼らはすでに宿命的に判断しているわけです。次に取税人をしていたレビをイエス様が招いて、そのレビが何もかも全部捨ててイエス様に従い、イエス様にもてなしをする場面がありました。パリサイ人と律法学者たちは怒りを覚えて、なぜイエスはあの罪人と取税人と一緒に食事をするのか。宿命的に取税人というのは罪人だから、捨てられた者だから、呪われてダメな人生だからああいうことをやっているしかないのだと見ていたわけです。だから取税人は売国者なのです。もちろんやっていることは良いとは言いません。しかし、それを見る見方がそのような見方なのです。いま取税人をやっているということは、あの人は罪人なので、神様に捨てられた者なのでああいうことをやっているんだとうわべを見て宿命的に判断していたわけです。それが世の中の判断であり、普通の人々が人の幸せと不幸を判断する基準なのです。もしクリスチャンの私たちも同じような見方をしているとすれば、クリスチャンであるにもかかわらず、クリスチャンとしての輝きは見ることができないのではないのでしょうか。それが整えられて、その刻印が変えられるまで、神様はさまざまな方法でその人を整えていかれるでしょう。私たちがクリスチャンの特権として他のたましいを見て、どのような問題を抱えている人でもその人をキリストの救いの福音をもって助けようという思いを持って祈る信者にならない理由は、内側からこのような人の幸せと不幸に対しての基準が変わっていないからかもしれません。

3) 国家的、家庭的な背景

人は自分が望んで生まれたわけでもないのに生まれてみたら国そのものが戦争の真っ最中の場合もあります。また生まれてみたら独裁政権で民が苦勞している、苦しんでいる国に生まれる場合もあります。また生まれてみたら親が離婚してしまったり、生まれてみたら親の顔も見ることができないまま施設で育つ場合もあったり、自分が望んだわけではないのに家庭的な背景、国家的な背景というものもそれぞれあるわけです。

4) 個人的な条件

また、個人的にも自分で願ったわけでもないのに障害を抱えて生まれる場合もあるし、何かの事故によってそういう問題を抱える場合もあるし、他の人はハンサムなのに、私は一般の基準から見たときにどうしてもブスと言われざるをえない形をもって生まれる場合もあるし、他の人は才能あり、歌もうまいし、勉強もできるのに、私には何一つうまいものが見つからない、そのように生まれてくる場合もあります。そういった背景、バックグラウンド、いろんな条件などがみな異なります。それを見て私たちはついつい判断してしまいます。ああいう国に生まれることが不幸なんだと。治安の良い経済的に裕福な日本で生まれたから私は幸せなんだ。アフリカの飢餓に苦しんでいる国で生まれたのは生まれたときから不幸な人間だと、言葉では言わないかもしれませんがついついそのように思ってしまいます。もちろんかわいそうに思うことは人間として当然なことです。しかし、そのかわいそうというのがどういう次元で、どのようなレベルでかわいそうなのでしょう。ならば裕福な家庭で生まれた、親の愛情をたっぷり受けて育てている自分はかわいそうではないと思うでしょう。クリスチャンでありながらもそこが変わっていないので、なかなかクリスチャンとして一番大切な伝道の門が開かれない、伝道と結びつかないわけです。私たちは一言で申し上げると、伝道のために生かされているわけであって、そうでなければ生きる理由などは本当はありません。無理やり伝道するとか、そういう次元の話ではありませんが、常にこの私を地獄から救い出してくださった、無条件の愛によって滅びるしかない私を救い出してくださったこの福音をあの人も聞かないと、この福音を聞くべきだ、伝えなくちゃという思いを持つことはクリスチャンとして当然で当たり前にならないといけません。それを基準にして軸にしてなぜそうでないのかと合理化してはいけません。

なぜなんだろうか。常にそれを悩むことを信仰生活、また祈りと言います。

5) 優劣、高慢と落胆、自慢と不満、差別と鬱憤

その思いがないまま優秀な成績で卒業し大手企業に就職して認められた。それがクリスチャンの成功なのでしょうか。とんでもありません。私たちは今からでも遅くありません。考え方をしっかりしないといけません。世界中に福音を待ってる人が大勢備えられています。でも私たちは日本から出て行くことができません。日本どころか自分の地域から自分自身から出られないのです。福音が私に届いたのに自分の心の内にしまっておいて、それを引き出すことができないのです。何が理由なのでしょう。それを問いかけて悩んでいかないといけません。その悩みがないままいくら皆さんが真面目にどこかの分野で何かを達成したとしても、それは成功ではありません。バベル塔のように必ず崩れてしまいます。皆さんのその成功も仕事も才能も、全部が人のたましいを救うための福音宣教のために許されているものなのです。それと全部結びつかないといけません。ゆくゆくは、いやゆくゆくでもありません。最初からそれは 237、5000 未伝道種族と全部つながるようなものでなければいけません。どのような仕事でも、どのような才能でも、それを通して多民族の人たちが助かる、レムナント、子どもたち、次世代の人たちがその仕事を通して、その人を通して助けられ、病んでいる人々がその仕事を通して助けられるような仕事、才能でなければ意味がありません。クリスチャンはそういう存在であるということをぜひ覚えましょう。世の中ではうわべによって人の幸せ不幸、また善と悪などをついつい判断してしまう宿命的な判断に振り回されているということを心に覚えましょう。だから、そういったうわべ、いろんな条件によって優劣を分けたり、高慢になったり落胆してしまったり、自慢したり不満を抱えたり、あるいは差別に走ったり、それに反発して鬱憤を抱えたり、それを爆発させたりということの繰り返し私たちが生きてるこの世というところなのです。今日の聖書に出ているパリサイ人と律法学者たちはそのような見方を持っていました。だからイエス様が貧しい人、彼らが見たときに罪人で捨てられたと思われる人々と付き合うこと自体が許せないわけです。彼らの理屈で申し上げると、神様に敵対しているわけです。もうすでに神様によってさばかれてあのようになったのにお前が一体何者であれを触ろうとしてるのかという感覚なのです。それほど律法主義、つまり福音が何か分かっていないまま正論に囚われているということは怖いことなのです。クリスチャンの私たちも霊的な問題と私たちの理解を遥かに超えているキリストの救いの奥義と愛がわかっていないと、ついつい道徳、倫理、また因果応報の法則に囚われて、自分自身も他の人もそれによって判断し振り回されるような人生が終わらないのではないのでしょうか。しかし、イエス様がなさっていることすべては、彼らが見たときには罪人と思われる人々の反応を見ていやしの祝福と神からのいのちの祝福が与えられました。

2. 神様は人の中心を見て祝福される。

つまり二番目です。神様は人の判断と違って人のうわべではなくて、人の中心を見てその人を祝福されます。

その人のうわべが一般の基準から見たときには、今まで既存のさまざまな法則、ルールから見たときにはダメと思われるようなうわべを持っている人であっても、神様はおかまいなしなのです。その人の中心を見て祝福されるからです。クリスチャンの私たちにこのような見方がしっかりと自分のものになって、まず自分自身を見る目が変わり、そのときに初めて他人を見る目が変わります。現場で姦淫の罪を犯している人を見たときに石を持ち上げるのではなく、私もあなたを罪に定めませんよ。そういう生かす方向に行くようになります。ちょっとした何かがあってもついつい是々非々に走ってしまうのではないのでしょうか。特に聖書のみことばが分かっているからこそそのみことばを律法的に取り上げて、これに合っている合っていないということですぐについついさばいてしまう。それが教会なのでしょう。最初からずれているわけです。

1) 福音的判断

神様は人の中心を見てその人を祝福されます。このような判断を福音的な判断と言います。イエス様に祝福された今日の聖書に出ている人だけでもその中心が見られる表現が必ずあります。

2) お心一つで、信仰を見て、何もかも捨て

らい病の人はイエス様にお願ひしました。お心一つで、あなたが願われるのであれば、私は治ることができます。イエス様が私の心だということ癒されました。どういう意味なのでしょう。パリサイ人が見たときには、当時らい病というのは呪われた人生というふうに釘を刺されていたものなのです。いまはそういう目でははいけませんよ。当時もちろん間違いなのですがそれが定番でした。それに対して彼はそういうことはお構いなしにイエス様を見て言いました。「あなたはキリストですよ。だからお心一つ私の人生変えられます」と。そのらい病の患者の中心を見て、らい病であろうがどうであろうが関係なく、イエス様はそのいのちに祝福を与えられました。中風の患者は友だちに連れてイエス様の方に上から降り降ろされて、細かいいろいろな内容があるでしょうけれども、パリサイ人といろいろなやりとりをしながら、最終的にイエス様は「あなたの信仰を見て」とおっしゃっているのです。その人は中風の患者です。当時、中東の地域では中風の患者というのは不治の病でした。不治の病なので、あれは神様に呪われた者なんだと。ひどい場合はやもめも神様に呪われてやもめになったという見方を持っていたわけです。にもかかわらず、私が他の人から見られたときにどのように見られるか、他の人の基準、世の中のさまざまな法則によってどのように評価されてどのように見られるかわかりませんがお構いなしなのです。信仰を見て、イエスがキリストです。その中心を見て祝福されます。人殺しでも同じなのです。人殺しを弁論したり、合理化するつもりはありません。悪魔に囚われない限りは人を殺すことなどは不可能なのです。しかし、世界中からあの人を人殺しなんだ、もう希望などない、そんなレッテルが死ぬときまでずっと離れることなくその人にくっついていられるかもしれません。しかし、それに振り回されてはいけません。刑務所にいる人間に福音を伝えるときになかなか難しいのは、自分の犯してしまった犯罪をちゃんと償って反省しています。それは悪くありませんが、その反省というものはずっと背負っていくということなのです。それが良いことだと思っているのでなかなか福音が入らないのです。福音というのは、世の中ではあなたが償って背負って人生を生きることが正解と言っているのですが、すべて疲れて重荷を負っているものはわたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげますよ。あなたが背負う理由はない。わたしがお前の全部を背負って十字架で死んで、すべてを完了したのでわたしについてきなさい。わたしを信じなさいよ。誰がなんと言おうが、その人は昔の犯罪から、自分の心から、良心から自由にならないといけません。なのにイエス・キリストを信じると言いながらも、ずっと私たちは過去に囚われているのです。あの野郎、あのことさえなければ。なぜなのでしょう。見方が変わっていないからです。それから今現在もいろいろな弱さや問題、悩み事などを抱えてるかもしれません。だから思いっきり堂々と私は終わった、神の子ども、幸いな者なんだと宣言できないのです。自分のようにこういう弱さを抱えて、いまだにこのような過ちを繰り返してる自分が幸いな者、神の子ども、伝道者と言えるものなのか... 図々しいとついつい思ってしまうのです。なぜなのでしょう。弱さがあり、皆さんが繰り返している過ちがあるからではなくて見方が変わっていないからです。幸せと不幸、善と悪の見方が変わっていないからです。人のうわべによってついつい判断してしまう。それでは宇宙の中で一人も生き残れるようなものはいません。だから神様はキリスを送ってくださいました。神様は人の中心をご覧になって祝福されます。取税人、売国者。そうです。当たり前です。そのレビ人はそのような売国者としてのレッテルがくっついていてる者に間違いありませんでした。にもかかわらず、イエス・キリストに招かれたときに何もかも捨てて、それが中心なのです。

3) イエス様をキリストと信じる信仰

あなたはキリストですよ。それさえあればけっこうなのです。他の何かがそこに加えられたり、他に何かで引っかけたりしてはいけません。中心なのです。その中心こそ、イエス様をキリスト信じる信仰なのです。

4) 福音の前で罪人と認める心(病人)

言葉を変えますと、福音の前で自分は罪人ですと認める心です。それでイエス様が丈夫な人間にはお医者さんなどはいらないよ。あなたがたは自分で医者などいない丈夫な人だと思っているでしょう。でも、彼らは心の中心から「私は病人なのです。罪人なのです。私は医者がキリストが必要なのです」と思っている。そういう人々のために私は来たのだよとおっしゃっているわけです。

5) キリストが絶対必要な霊的根本を認める心

その病人というのは、単に病気を患っているという意味ではなくて、自分は本当にキリストが絶対に必要な霊的な問題を抱えている罪人なのです。イエス様をキリストとして信じるということは、自分の願いを叶えるために、自分のいまの問題をどうにか解決するために、より良い人間のためになれば、それはまだまだ余裕なのです。まだまだパリサイ人なのです。そういう余裕など一切ない。私は絶望的な神様を離れて悪魔の奴隷であり、地獄の運命を抱えているものなのです。キリストでなければ私はダメなんですよ。その中心です。周りから見たときに善良な市民として見られるかもしれません。何かの業績を積み上げて賞を受けたことがあるかもしれません。良いお父さん、良いお母さんかもしれません。そういったものは一切ちりあくたになり、私はキリストでなければ希望はなく、神様を離れて悪魔の奴隷であり、地獄の運命を抱えて生まれながら神の御怒りを受けるべき子として生まれたものなのです。この成功がこのお金がこの自分の人格が私の人生の根本には、私の救いには1mmたりとも役に立ちません。ちりあくたなのですと認める心、それが中風の病気、らい病という不治の病、取税人という社会の最悪な立場などを通して見ることができるようになりました。だから後々、私は取税人をしていてよかったと言えるようになります。キリストが中心なので。救いが中心なので。クリスチャンなのにパリサイ人の色がいまだに抜けていないのです。その染まり具合があまりにも濃くてなかなか抜けないのです。それが中心というものなのです。

6) 旧約の時も(イエス様の系図)

旧約の時も原理は同じです。イエス様の系図を見ますと、イスラエルの人が見たときには絶対そこに入ってはいけない人物が何人か入っています。ラハブ。遊女であり異邦人です。ダマル。自分の舅を誘って子どもを産んだ人です。ルツ。全く異邦人です。なのにそういう人々がイエス様の先祖として名前が記されているのです。なぜなのでしょう。特徴は、彼らは中心を持っていました。イスラエルの人々は全くそういう中心など持っていないのです。律法にこだわり、選民意識を持って自慢しているそのときに、不思議なことにイスラエルの人でもないのに、律法をもらったこともないのに、異邦人だったのに、イエスはキリストですよとキリストが来られることを信じます。お母さんがおっしゃっているそのキリストを私は信じます。ラハブもあなたがたのキリストを信じますと。私は国を裏切るような真似をしているのですが、それどころの問題ではない。私にはそのキリストが必要なんだ。たとえ国を裏切ることがあってもキリストが必要なんだよ。それが中心なのです。何がこの中心の前で邪魔になったり引っ掛かったりモヤモヤになるようなものが存在するのでしょうか。とんでもありません。この中心をご覧になってイエス様はいのちの祝福を与えられ、その結果、癒しの結果もついてくるようになりました。

7) 真の救い、真の癒し、やぐらの祝福

つまり、この中心、イエス様をキリストと信じる信仰の中心を見て、その人のうわべが過去がどうであろうが、今現在がどうであろうが、真の救いの祝福、真の癒しの祝福、そしてやぐらの祝福が与えられます。やぐらの祝福は何でしょうか。他の人にも光を照らして、他の人も生かすことができる伝道者の祝福が与えられるようになります。なぜ信者の私たちは、信じる瞬間からこのような伝道者の祝福、世の光として輝く人生が許されているのに、私とはあまりにも遠ざかって、私とあまりにもそれが結びついていないのでしょうか。そのことの一つが今日のメッセージを通してぜひ答えを得て基準を変えましょう。まず皆さんを見る見方を変えましょう。皆さんは誰でしょうか。どのような存在なのでしょう。本当に幸せな人でしょうか。幸いな存在でしょうか。何も問題のない新しく造られた神の子どもでしょうか。いやい

やことばはいいけれども問題だらけなんですよ...それが問題だと思っている限り、イエスはキリストという中心を持っていないわけです。それはイエスはキリストである限り、十字架ですべて完了したので、そのイエスを信じている限り、すべては終わりました。クリスチャンにとってそれは神の計画あるもので問題とはいいません。そこが霊的な戦いなのです。そこが暗闇が砕かれて伝道の門が開かれる方向に向かうのか、ずっととどまっているのか、その境目なのです。本当にすべてが終わったのでしょうか。なぜ言えないのでしょうか。基準が変わっていないからです。問題があるから問題でしょうか。もはや問題ではありません。本当の問題は何でしょうか。イエス・キリストはその問題を解決なさいました。だから問題はないのです。病気は問題ではありません。精神的な病も問題ではありません。戦争も問題ではありません。神様を離れたことが問題なのです。キリストが十字架でそれを解決されたので、キリストを信じる人にはもはや問題はあります。なぜ問題だと思っているのでしょうか。問題に対しての意識が変わっていないからです。いまだにお金がないことが問題だと思って、旦那さんが奥さんが子どもが問題だと思っているからです。それは問題ではありません。問題は神様を離れて悪魔サタンの奴隷になって、罪と呪いの運命に囚われていることが問題なのです。その問題がキリストによって終わったのではないのでしょうか。だから問題が終わったので問題はありません。なぜ問題だと思っているのでしょうか。問題に対しての理解が変わっていないからです。問題ではありません。問題が終わったにならないと神の計画は何でしょうかと神の国に入ることは許されないわけです。ずっと問題、どうしよう。問題をどのように解決できるかにとどまるのです。問題がないのに問題だと思っているとキリストが飛んでいって、ずっと悪霊がうろろろするしかないのです。その戦いなのです。れむnレムナント教会の皆さん、問題はありません。問題ではないのです。なぜ問題だと思っているのか。本当の問題が何かに対して勘違いしていたからです。病気が問題ではありません。皆さんの弱さも問題ではありません。私の弱さによってキリストの力が全うされる。それは問題ではありません。就職ができてない。問題ではありません。大学に入れなかった。問題ではありません。ああ勉強しなくていいのかという馬鹿な話ではありません。霊的な戦いなのです。見方を変えないと。根本から新しく始めましょう。古い土地を全部新しく耕すようにしないといけません。

なので今日からぜひ幸せと不幸、祝福と呪いの基準を、うわべから中心に切り替えましょう。それだけなのです。でも、今までの長い間の付き合いがあるのでなかなかそういうわけにはいかないよとたぶんささやくと思います。その時に少し迷う場合もありますが、でも何回でもチャレンジしましょう。違う。基準は私がいま死の影の谷を歩いているからではなくて、中心がイエスをキリストとして信じているのか。ならば信者の自分は刑務所の中に入れていても、死の影の谷を歩いている、全身、皮膚がんを患っている、私は祝福の人、幸いな者と確信できるし、宣言できるわけです。それは悪魔に対しての宣言であり、神様に対しての告白でもあります。それを宣言して、私は祝福のものだから問題がどうのこうのではなくて、状況がどうのこうのではなくて、その祝福を確認することを優先しましょう。それを777と言います。祝福を確認しましょう。7つのやぐらは何かということ、まずその祝福によって自分のアイデンティティをまとめることなのです。私は人殺しをしていたその私ではなくて、三位一体の神様がいつまでも一緒にいて世界福音化のために伝道ができる者として造り変えられました。これが7です。自分はそういう存在なのです。だからこれから私が歩く道、旅程というものは、三位一体の神様が伝道の答えを用意して誰も止められない伝道の答えに向かってすべてが益となり、すべてが祝福になるその道を歩く者なんだ。それが旅程です。なにがあっても神様が用意していらっしゃる伝道の答えを邪魔することはできません。迫害も祝福なのです。もし自分がミスをしたとしても、それも祝福に変わるのです。そういう三位一体の神様が導かれる不思議な祝福の道を歩く、それが旅程です。それが祝福なのです。それが聖書66巻のまとめなのです。それを常に祈りの中で確認するわけです。祈りは何かを願うのではなくて、みことばをずっと確認することです。そして最終的には、その伝道の答えを味わうようになれば、その答えを持ってそこにとどまってハレルヤではなくて、地の果てにまでこれがどんだんどんだん伝道の答えを広めていくような道しるべがもうすでに出ているので、それに従っていくようになるよ。あなたの人生は地の果てまでその道しるべに従って歩むように祝福されているのだよ。これが7つの道しるべです。三位一体の神様が正しく道しるべをつけていらっしゃるのです。エルサレムからアジア、マケドニア、ローマという道しる

べが。それが祝福です。そのように祝福されました。その確信が持てないように邪魔する古き法則を全部切り捨てるように。まず自分自身に対しての見方を変えないといけません。

それでこれを祈りの中でずっと味わいつつ、うわべで泣いたり笑ったりしている人々に、中心を見る真の福音を伝えていくようになりましょう。そのように祈っていきましょう。これが私たちの特権です。訓練をたくさん受けた人は伝道できるが、私はいま信じたばかりで聖書もよくわからないので少し後の話だと思ふのは、それが見方が変わっていないからです。イエスをキリストと信じた人は誰であっても伝道者です。ただそれを確信できないさまざまな妨げを取り除く作業が求められます。みことばによって。皆さんが考えているようなそれは正解ではありません。みことばを通して。まずまず幸せと不幸の基準はうわべではなくて中心なのです。皆さん、幸せでしょうかと言われたときに、頭のどこかに曇っている何か思い浮かんで、あの野郎、僕のお母さん、お父さん。障害、経済、通帳、いろんなものが浮かび上がるかもしれません。あまりにも長い間、悪魔のやぐらによって癖になってるから。だから集中しないといけません。中心をご覧になって祝福されるので、うわべなどは極端に申し上げるとどうでもいいのです。自由にならないといけません。痛みを抱えて痛いと言いながらなかなか難しいでしょうけれども、それでもそれは幸せと不幸とは関係ありません。イエス様をキリストと信じる信仰を持っているか持っていないかが基準なのです。それに集中すると、柳先生の言葉によりますと、癌の痛みを忘れるぐらいそこに集中します。これがクリスチャンの特権であり、祈りなのです。神様が皆さんの内側からサタンのやぐらを砕いて、みことばによる神のやぐらが新しくしっかり立つように働いてくださることを信じて、また祝福します。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。地獄の運命を抱えて、サタンの奴隷として知らずに生きていた私たちを無条件の愛によって、キリストの血潮によって救い出して、すべてを新しくし神の子どもにし伝道者として祝福して下さったことを感謝します。この確信と喜びを邪魔する古き法則が完全に砕かれて、サタンのやぐら、不信仰のやぐら、心の傷のやぐらが砕かれて、神のやぐら、信仰のやぐら、癒しのやぐらがひとりひとりの内側にしっかり立つようになり、自分は幸いな者、伝道者であることを777の祝福をもって確認しつつ、残りの生涯、伝道者としての希望を持って歩いていけるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。